

鹿病防第34号
平成22年9月28日

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成22年度病害虫発生予察特殊報第1号について

このことについて、下記のとおり発表したので送付します。

なお、病害虫防除所ホームページ（www.jpjn.ne.jp/kagoshima）にも掲載しています。

病害虫発生予察 特殊報第1号

平成22年9月28日
鹿児島県病害虫防除所

1 病害虫名 イネ南方黒すじ萎縮病（仮称）
Southern rice black-streaked dwarf virus (SRBSDV, 仮称)

2 作物名 水稻

3 発生確認及び発生状況

2010年8～9月に県内の水稻で萎縮症状の株が確認され、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構九州沖縄農業研究センターによって、県内で未発生のイネ南方黒すじ萎縮病（仮称）と同定された。

県内では指宿市の飼料用水稻及び南さつま市の主食用水稻で発病を確認している。

4 分布及び病徴等の特徴

分布：本病害は2001年に初めて、ベトナム北部及び中国南部で発生が確認されたウイルス病で、国内では熊本県で2010年8月に発生が認められている。

病徴：生育初期に感染すると株が萎縮し（写真1）、その程度は感染時期が早いほど激しい。葉身及び葉先がねじれ（写真2）、激しい場合はらせん状となる。また、葉色は濃くなり、葉脈は隆起する症状も認められる。出穂期以降は茎や葉鞘に黒すじが発生し、穂は矮小化し（写真3）、不稔や初の褐変、上位節からの異常な分枝、止葉の小葉化などの症状がみられる。

伝染：本ウイルスはセジロウンカ（写真4）によって媒介され、レオウイルスに分類される。既知のレオウイルスは媒介虫によって永続的に媒介されるが、経卵伝染、汁液伝染、種子伝染および土壌伝染しないことが知られている。

感染植物：水稻の他、トウモロコシ、イヌビエ、ミズガヤツリで感染が確認されている。

5 防除対策

- （1）水稻の生育初期に感染すると被害が大きくなるため、生育初期からセジロウンカに効果の高い箱施薬剤や散布剤で防除を行う。
- （2）飼料用水稻では、「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル」（稲発酵粗飼料推進協議会等編）もしくは「多収米栽培マニュアル」（農林水産省編）に沿って防除を行う。



写真1 萎縮症状



写真2 葉先のねじれ



写真3 株、穂の矮小化



写真4 セジロウンカ（雌成虫）